

科学研究費補助金（学術創成研究費）研究進捗評価

課題番号	18GS0209	研究期間	平成18年度～平成22年度
研究課題名	シーケンス高分子—学際融合による新高分子科学の創成		
研究代表者名 (所属・職)	澤本 光男（京都大学・大学院工学研究科・教授）		

【平成21年度 研究進捗評価結果】

該当欄		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<b>（評価意見）</b>		
<p>本研究課題は、高分子の精密重合分野のリーダーである研究者による研究である。</p> <p>官能基の配列（シーケンス）を制御した高分子を合成するという高分子科学の究極目標の一つを取り上げ、精密触媒開拓、制御機構構築、機能特性発現までを学際融合の視点を踏まえて推進し、従来にはない新高分子科学を創成しようという計画である。</p> <p>リビングラジカル重合に大きな成果があり、機能性モノマーに耐えうる高活性触媒の開発、配列制御のための鋳型開始剤の開発など当初計画に向けて順調に成果があげられている。</p> <p>今後、シーケンス制御重合基盤モノマーの設計などをより強力に進めることにより、期待どおりの成果が見込まれる。</p>		

【平成23年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果どおりの研究成果が達成された。
A	<p>当初の研究目的である高分子のシーケンス制御がなされた。精密触媒開拓に研究成果を挙げるとともに、従来未踏分野であったシーケンス制御に対し、生物に学ぶという学際融合の視点を踏まえた制御機構を提案・設計し、目的高分子の精密合成に対する制御機構構築が達成された。また、創製した高分子の構造・機能の確認が行われており、当初の予定どおりの研究成果が達成されている。提案されたシーケンス制御機構は、独創的かつ重要な研究成果であるので、今後の展開や論文発表によって、研究成果のより社会的な周知を期待する。</p>